

## ウッドマイルズを通して考える徳島杉

共建築設計事務所  
釜内晋治

木造建築研究会に参加していく中で、私自身が「木材の流通過程」をよく把握していないことに気が付いた。そのことがウッドマイルズ研究会に入会するきっかけでもあった。私たち建築設計の実務者は兎角、木材の性質、地震時の構造体の挙動などに敏感にはなるが、「その木材がどこをどう経てこの住まいにやってきたか？」などと考える機会がほとんどない。

徳島ではかなり以前から、「顔の見える木材で」という活動が行われてきているが、私ぐらの年齢を境に若い建築実務者はその活動自体のことも知らないかもしれない。また残念ながら、ウッドマイルズにも触れることはまずない。本県にも算定技術者は一人(講座担当者)のみという寂しい状態である。

木材の輸送過程を、詳らかにしなければ算出することができないウッドマイルズ、その量を把握するウッドマイレージ、更に排出される CO<sub>2</sub> に換算するウッドマイルズ-co<sub>2</sub>。そして、それらの過程をどれほど把握しているかを「流通把握度」というふうに、計算過程でやむを得ず私たちは木の来た道を有耶無耶にはできない。紹介したこの4つの指標が、ウッドマイルズの第一歩である。

地元の木を使うことに、どういった意味があるのか？

そこに何らかの意味付けがないと、なかなか実行に踏み切れないものである。ウッドマイルズ指標の場合、CO<sub>2</sub> 排出量の削減によって環境に貢献している。また、森林保全の一端を担っているという満足感もインセンティブの一つと考えてよいのではないだろうか。

一方目を転ずれば、世界で毎年どれほどの森林が地上から消え去っているのか、更に、この緑豊かな日本でさえ、かつてはどれほどの森林が失われたかを知っていただくよい機会でもあったように思う。この日本の目の前にある前提と世界の視点を取り違えないようにしないと違法伐採の問題などは実感し難い面があると思う。

私が木研最初の年に、トレーサビリティというキーワードからウッドマイルズに興味を抱き、先の講座「住環境を考える」と、本講座を通して「地域性」というキーワードを軸として意識するようになったのだが、受講者の方々がどのような立脚点に立つか楽しみでもある。

最後に、講座の中で紹介させていただいた DVD「木の来た道」、一度ご覧いただければと思う。

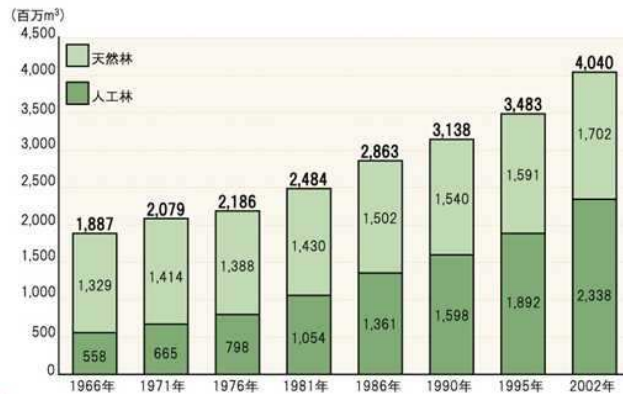
## ウッドマイルズに取り組むことは

### 木材供給の2つの側面を「見える化」すること

- 木材の輸送過程のCO2を明らかにし、国産材、地域材利用の環境貢献を「見える化」する。
- 流通過程を「見える化」することで、安心・安全の木材供給や、産地と消費者をつなぐことに貢献する。

## 日本の森林蓄積量の推移

※出典：林野庁(2002)「森林資源現況調査」をもとに作成



## DVD「木の来た道」



2008年

(独法)環境再生保全機構地球環境基金助成

著作・製作企画

地球・人間環境フォーラム

国際環境NGO FoE Japan

abovo